



ゾルゲの諜報活動から 逮捕・処刑に至るまでの半生と 彼を愛した女たちを描いたドラマが いよいよ日本解禁!

ナチスドイツの大手新聞社の記者として東京で諜報活動するソビエト連邦のスパイ、リヒャルト・ゾルゲ(アレクサンドル・ドモガロフ)。駐日ドイツ大使を通して、ヒトラーによるソ連侵攻を知ったゾルゲは、スターリン率いるソ連側に情報を伝えるも信用されなかったが、尾崎秀実らとともに諜報活動を継続し、その後もソ連に情報を送りつづける。しかし、頻繁に発信される無線通信により、特別高等警察の大崎少佐(山本修夢)に諜報団の存在を感知されてしまう。やがて、41年にナチスドイツがソ連に攻め込み、ゾルゲはソ連からの評価を回復したものの、諜報団には徐々に危機が迫っていた。緊張が高まる国際情勢の中で、精神の安定を保つため酒と女にのめり込むゾルゲは、ビアホールで働く日本人女性・花子(中丸シオン)と同棲しながら、元恋人の駐日ドイツ大使の妻にも惹かれていく。そして、41年10月、ゾルゲは遂に逮捕され、44年11月に処刑された。



祖国に裏切られても祖国を愛した20世紀最大のスパイ・ゾルゲ

近年、ロシアで再評価されるようになった20世紀最大のスパイ、リヒャルト・ゾルゲ。彼の日本での巧みな諜報活動から逮捕・処刑に至るまでの半生と、知られざる多彩な女性関係を描いたドラマがここに誕生した。本作は、ウクライナ・オデーサ出身のセルゲイ・ギンズブルグによって、2年以上もの撮影期間と7億円もの巨費を投じて製作され、高視聴率を獲得。主人公ゾルゲを演じるのは、『ソローキンの見た桜』(19)でボイスマン大佐役を演じたアレクサンドル・ドモガロフ。共演に、山本修夢、木下順介、瀬戸元などの日本人が出演。ゾルゲの恋人・花子役には、22年7月に惜しくも38歳の若さでこの世を去った中丸シオンが熱演。中丸の実父・中丸新将も警察上官役で出演している。